

Yano E plus

2009.12
通巻No.021 毎月15日発行

光硬化材関連市場

2. 注目企業の動向

(2) 大成ファインケミカル

各種ポリマーのオーダーメイド製品の開発と製造が主体で、250種類以上のモノマー群から樹脂設計を行う。これまでに約600種類の製品を開発したが、UV硬化型アクリルポリマーの開発にも取り組み、今年の9月に製品化した。

この製品(8KXシリーズ)はUV硬化性アクリルポリマーの側鎖に新開発のマクロモノマーを共重合させたもので、アクリル系オリゴマーより各種材料との相溶性がよく、密着性も高い。反りやひずみ、硬度低下などの不具合も減らせるなど様々なメリットがある。一般にUV硬化性のアクリル系オリゴマーを使う場合はベタつきを抑えるためにポリマーを添加することも多いが、通常のポリマーは光に反応しないため硬度の低下やひずみの原因になりやすい。しかし、今回製品化したポリマーはUV硬化型であるためオリゴマーに添加しても高い硬度が得られ、ベタつきもなく、反りやひずみも抑えられる。そのため単独で使用するより、アクリル系オリゴマーへの添加需要が大きいと予想されている。当面の利用分野はLCD用フィルムのハードコートを想定しているが、携帯電話のトップコートなどにも採用される可能性がある。

これまでUV硬化材料市場はアクリル系オリゴマーが中心で、ポリマー製品は少なかった。そのため発売後は反響が大きく、UV硬化の新たな需要を創出する可能性がある。初年度に数量ベースで100t、2012年度に5億円の売上が目標。